様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１２９５２

研究課題名（和文）中欧諸国の多様な連邦制の下での周辺的位置にある地域の経済発展に関する比較研究

研究課題名（英文）A Comparative study on the economic development of regions in a peripheral location of the respective country of variegated federalism in middle Europe

研究代表者
山本　健兒（YAMAMOTO, Kenji）

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：５０１３６３５５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、中欧各国内で周辺的位置にある農村小規模地域が当該国平均以上の経済力を発揮できるのは何故かという問題の解明を目的とする。調査対象地域はドイツのエムスラント郡、オーストリアのフォラールベルク州、スイスのシャフハウゼン州である。
　研究の結果、以下の諸要因が明らかとなった。上記３地域ではいずれも、複数の地元中小企業がニッチな商品市場で高い世界シェアを持つ「隠れたチャンピオン」へと、経営戦略や商品開発の故に成長した。加えて、地方政府による「自助のための支援」と地域内社会的ネットワークが有効に作用した。誘致企業も独自の意思決定・Ｒ＆Ｄの機能を持つ場合がある。その背景に各国独自の連邦制がある。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study is to investigate the question, why some small-scale rural regions in a periphery within the middle European countries respectively have been able to attain a good economic performance above the respective national average. The objects of this study are Emsland in Germany, Vorarlberg in Austria and Schaffhausen in Switzerland.
　These regions could develop because of the following factors. Local SMEs have evolved to “Hidden Champions” in a world-wide niche market. This is attributable to their own unique management strategy and development of its own goods with its own process technology. Policies by the local government and local social networks have also functioned well for the evolution of the SMEs. There are also companies, capital of which is in hand of other companies outside of the region. But some of them have some management autonomy and R&D function. Federalism and its related social thought of subsidiarity contribute to the regional development.

研究分野：社会経済地理学

キーワード：経済・交通地理学　地域　経済発展　隠れたチャンピオン　連邦制　エムスラント　フォラールベルク　シャフハウゼン

１．研究開始当初の背景

本研究開始当初、日本では「地方消滅」問題を克服すべく「地方創生」の機運が高まっていた。他方、連邦制を取る中欧諸国には、各首都から遠隔地にある小規模農村地域でありながら当該国の平均を超える経済的パフォーマンスを発揮している場所があることに筆者は気づいていた。そうした地域の経済活力の要因を明らかにするならば、現下の日本における「地方」の問題を克服するための方策を考えるうえで有効ではないか、と発想した。

グローバリゼーションが進む現代では、大都市の存在こそが地域の経済的発展につながるという考え方が有力である（Scott 2001）。この通念が妥当しない地域における経済活力の要因を明らかにするならば、地域経済の発展に関するこれまでの理論と、これに由来する政策的インプリケーションとに革新をもたらすことが期待される。

わが国の社会科学では、中央集権制を取る日本の現状と対比するという意味でドイツの連邦制への関心が寄せられてきた。しかし、連邦制と国内諸地域の経済的豊かさとの関係を問い直す研究は、我が国のみならず英語圏やドイツ語圏にも管見の限りでない。しかも、連邦制に多様性があるという認識も薄い。

首都から遠隔地にある小規模農村地域がいかにして現在の経済的豊かさを築いたのか、その際に連邦制がどのような役割を果たしたのかを研究することは、国際的にみても未開拓の課題である。

２．研究の目的

本研究の目的は、連邦制という政治行政制度と人口小規模農村地域の経済発展との関係を明らかにしようとするものである。研究対象地域は、ドイツのエムスラント郡（人口約 32 万人）、オーストリアのフォラールベルク州（人口約 38 万人）、スイスのシャフハウゼン州（人口約 8 万人）である。いずれも首都から遠隔地にあり、地域内最大都市でも人口 5 万人台以下であり、しかも地域内での都市数が５以下であり、広い農村部を抱えるという点で共通する。ただし、シャフハウゼンはスイスの経済的な首都とも言えるチューリヒから特急列車で約 1 時間の距離であり、周辺的地域というほどではない。

上の３地域の長期にわたる経済地理的変動を研究し、各地域がどのようにして現在の経済的豊かさを築いたかを解明し、３地域の共通点と独自性とを明らかにすることが本研究の目的である。

３．研究の方法

この研究のために取った方法は、第１に調査対象地域に存在する文書館や公共図書館での文献探索と重要文献の解読である。第２に、各地域の経済振興に携わる実務家、事情を良く知る研究者、各地域に立地しかつ世界的に活躍している企業経営者へのインタビューである。

４．研究成果

（１）３地域の経済略史

上記３地域の経済発展に関する研究文献（Danielzyk und Wiegandt 1999; Franke et al. 2002; Feurstein 2009; Historischer Verein des Kantons Schaffhausen 2001; Pichler 2015）の読解によって、各地域の 1990 年頃までに至る経済変動は次のように要約できる。

①エムスラントはドイツ北西部に位置し、オランダと国境を接する。1950 年代まで「ドイツの貧民収容所」と称されるほどに貧しい地域だった。その理由は、かつて氷河に覆われていたため、湿地帯と泥炭層からなる荒蕪地が大半を占めて農業も振るわず、人口希薄だったからである。

しかし、1950 年のドイツ連邦議会の決定を受けて、1951 年に設立されたエムスラント有限会社という民間企業形態をとる公共企業が，連邦及び州政府，そして地元の諸郡による公共投資を受けて農地整備を進展させた。その結果，1970 年代後半には混合農業地域として国内の他農業地域に比べて遜色ない経済水準に達した。

エムスラントは人口希薄であるがゆえに、原子力発電所、軍事演習場、自動車走行試験場、リニアモーター鉄道試験場など、迷惑施設として嫌われがちな大規模施設を受け入れてきた。しかし、これらが雇用増加に大きく寄与したわけではない。

②フォラールベルクはオーストリア最西端に位置してボーデン湖に面し、スイスやドイツのバイエルン州と国境を接し、ドイツのシュヴァーベン地方とも至近距離にある。それに比べてオーストリア内他州との交通アクセシビリティは、ティロール州との境になるアルルベルクという山岳地帯の故に 19 世紀末に至るまで極めて悪かった。

つまり政治的にはオーストリアの枠組みの中にあったが、社会的経済的にはスイスやドイツとの関係がもともと強かった。その状況の中で、19 世紀半ばころまでシュヴァーベンキンダーと呼ばれる少年少女の農業出稼ぎ労働者を、シュヴァーベン地方に送り出さざるを得ないほど貧しい地域だった。

しかし、スイスの影響を受けて 19 世紀後半にオーストリア内で最も早く工業化し、繊維衣服産業地域として 1980 年代初めまで同国内で比較的高い経済水準を維持していた。この産業は、グローバリゼーションの故に衰退したが、それに代わって金属加工・機械・電機工業などが成長し、21 世紀に入るころにはＥＵ内で最も豊かな地域の一つに数え入れられるようになった。

③シャフハウゼンはスイス北東部に位置し、ドイツのバーデン・ヴュルテンベルク州と国境を接し、ボーデン湖から流れ出るライ

ン川がこの地域南部を貫流する。同名の首都はチューリヒとシュトゥットガルトとを結ぶ交通路の要衝であり、それゆえ周辺的地域とは言えない。とはいえ 19 世紀半ばころまで，シャフハウゼンはチューリヒ，バーゼル，ザンクトガレンなどの有力諸都市や州だけでなく，東南に隣接するトゥールガウ州と比べても経済力の劣る地域だった。

シャフハウゼンの工業化が本格化するのは，1857 年のヴィンタトゥーアへの鉄道開通，1866 年のライン川モーザダム建設による水力活用を契機とする。それ以降、繊維工業と時計工業が盛んになった。のみならず、地元企業家の活動によってスイスきっての鉄鋼・機械工業部門での大企業 Georg Fischer AG（GF AG）と武器・鉄道車両製造企業 SIG が 20 世紀初めまでに育った。その結果、経済水準もスイス内で比較的高くなった。

しかし、鉄鋼・機械工業が構造不況に陥り、上記大企業の経営も 1970 年代から 80 年代にかけて危機に瀕し、これによってシャフハウゼン経済もスイスの水準を下回るようになったが、1990 年代半ば頃から経済力を回復し、21 世紀にはいると同国平均を上回る経済的パフォーマンスを発揮している。

上記３地域は、地理的に見れば各国の中での周辺的位置にありながら、経済的にはもはや周辺ではなくなっていることが明らかである。

（２）グローバリゼーション下での経済成長を担った企業とその存在・成長に関する要因

筆者による、各現地での文書館及び図書館収蔵資料の読解や、各地域の政治的経済的動向に詳しい識者、企業支援機関、企業経営者などからの聞き取りにより、以下のことが明らかとなった。

①エムスラントでは、第 2 次世界大戦以前から地元に存在していた製造業中小企業が、1970～80 年代から成長し、グローバリゼーションが顕著となった 1990 年代以降に「隠れたチャンピオン」と称されるほどの世界的大企業に成長したことが重要である。その代表は豪華クルーズ船建造のマイヤー造船所と農業機械・トレーラー製造のクローネ・グループ企業である。これらはもともと地域内需要に応える企業だった。そのいずれに対しても、エムスラント域内に複数のサプライヤー中小企業が成長しており、地域経済の発展に貢献している。

のみならず、上記両社とは無関係にニッチな分野で大きなシェアを占める中小企業が順次育ってきている。例えばプール製造のリヴィエラプール社、警察や消防車両の警報器製造のヘンシュ社などである。また、パイプラインのメンテナンスを業務とするローゼン社の世界シェアは圧倒的に高い。その存在は地元以外では知られておらず、すでに有名企業となったマイヤー造船所やクローネ社と異なり、まさしく「隠れたチャンピオン」である。

バイオマス発電所を併設する農家が急増する一方で、平坦な地形であることを生かしてサイクリング客が多く訪れるツーリズム開発も順調に進んできた。農村地域でありながら、地元資本によるホテルやレストランの水準も高い。つまり、エムスラントは決してマイヤー造船所やクローネ社などの企業城下町が少数あるという地域ではなく、むしろ全体としてバランスの取れた産業構造をなす経済地域に変貌している。その背景にはヘルマン・ベーリング（Hermann Bröring）のリーダーシップがある。彼は郡役所事務総長に 1991 年に就任して行政部門のトップとなり、後に政治家としての郡長にも選ばれて 2011 年まで務めた。政治行政上のリーダーのみならず、カトリック団体を中心とする住民の社会的ネットワークが有効に機能していることも見逃せない。エムスラント郡は面積 2882㎢と、佐賀県よりも大きく鳥取県よりも小さいが、域内での企業家やその従業員などは相互に知り合いであるということが稀ではない。

②フォラールベルクでも、地域内需要に対応する業務に従事していた中小零細企業の中から、ニッチな事業分野で世界的な「隠れたチャンピオン」企業に成長した企業が複数存在する。その代表はキッチン用家具のための蝶番の開発生産を行うブルーム社、スキーリフトやケーブルカーを開発生産するドッペルマイヤー社，洗剤・化粧水・飲料水などのためのプラスチック容器を開発生産する ALPLA 社などである。

ブルーム社はもともと馬蹄を生産する村の鍛冶屋だった。これはフォラールベルクやその近くに立地していた家具企業に対して金具を生産するようになったが、金具生産の特許を偶然あるスイス企業から取得し、これを用いて取引先を拡大し、世界最大の家具生産小売企業ともいえる IKEA を取引先として確保し、フォラールベルク州最大の雇用数約 5100 人を誇る大企業へと成長した。

ドッペルマイヤー社は、第 2 次世界大戦以前に地元の繊維企業が必要とする多層階工場のためのエレベータを、スイスの著名なエレベータメーカーの技術を導入して生産供給していたが、戦後、地元スキー場のために簡単なリフトを開発生産し、そこから漸次、より高機能のスキーリフトを開発してオーストリアだけでなく例えば北米のスキー場を主要顧客とする企業へと発展した。リフトよりもさらに高度な機械であるケーブルカーも開発生産するようになり、世界のトップメーカーへと躍進した。同社のケーブルカーは、急峻な傾斜地が多い南米大都市での交通にも活用されている。

ALPLA 社は、スイスのザンクトガレン州内の機械メーカーに越境通勤していたエンジニアが、射出成形機とそのための金型を生産し、居住する地元の芥子メーカーのためのプ

ラスチック容器を開発生産したのが始まりである。その後、多様な形状、多様な素材からなるプラスチック容器の生産のために必要な射出成形機や金型を自社開発するだけでなく、容器の納入先企業の工場近くで生産納入するというビジネスモデルを開発し、欧州で最重要のプラスチック容器生産企業へと発展した。

上記３社のほかにも、1980 年代以降になると電子機械器具とそのためのソフトウェアを開発生産するスタートアップが出現するようになった。バハマン社とオミクロン社である。いずれも発電所や変電所、送電施設などの装置をコントロールするための電子器具を開発生産しており、販売額に占める輸出比率が 90%以上ときわめて高い。その本社工場での従業員はいずれも多国籍から構成されており、共通言語は英語である。創業者はいずれも、バーデン・ヴュルテンベルク州に本社がある電子器具メーカーのフォラールベルク子会社ヒルシュマン社にまず雇用され、そこから独立したという点で共通する。ただし、両社は競合関係にない。産業としては同じ分野であっても、具体的な商品はニッチなものだからである。

ほかにも多様な産業分野で国際的に活躍する製造企業が多数ある。その中には外国からの誘致企業も複数あり、なかでも土木建設機械製造のリープヘア社は、同社グループ全体の分権化された組織の中で、フォラールベルク子会社が独自の研究開発機能を持ち、州内で第３の従業者数（約 1700 名）を擁する大企業となっている。同社グループの本社はスイスにあるが、もともとドイツのバーデン・ヴュルテンベルク州にあった。リープヘア社も含めてフォラールベルクで活躍する製造企業に共通するのは、二重システムでの職業教育において実習生を多数雇用し、実習期間が終わったのちに正規採用する比率が高い、ということである。

二重システムでの職業教育の充実に、州政府の政策と各企業の協力、これらをつなぐ経済会議所が大きな役割を果たしてきた。産業政策と教育政策とが一体化して推進されたと言える。1960 年代から 2000 年代末にいたるまでの州首相がわずか３名であり、いずれも州の産業力と生活水準の向上のために、経済政策＝教育政策という方針を堅持し、リーダーシップを発揮した。

フォラールベルクでも企業経営者間の社会的ネットワークは濃密である。その面積は 2601km^{2}であり、佐賀県よりも若干広いという程度でしかないが交通インフラの整備により、自家用車を用いれば州内で相互に最遠隔地にある州都ブレーゲンツとアルルベルク山麓の繊維工業都市ブルーデンツとを約 45 分程度で結ぶ。そのインフラ整備の上に立って、濃密な社会的ネットワークが構築され機能している。ちなみにブルーデンツは食品工業も盛んであり、地元のビール醸造企業が州内需用に、外国企業のチョコレート製造子会社がドイツなどを主要市場として活動している。しかも併設されている小博物館と直売店がツーリストへのアトラクションとなっている。

ボーデン湖上でのブレーゲンツ野外オペラ、アルプスやその前縁地ともいえるブレーゲンツァーヴァルト山地でのスキーとヴァンデルング、シューベルティアーデと称される初夏の連続音楽会など、その自然景観を活かしかつ工夫を加えたツーリズムアトラクションの故に、年間を通して観光客が多い。住民１人当たりのツーリスト延べ宿泊者数は、ティロールやザルツブルクに劣らない。

③シャフハウゼンでは、構造不況に陥った州経済を立て直すための戦略を策定すべく，州内の中小企業団体のイニシャチブでプロジェクトグループ WERS（Wirtschafts-entwicklung Region Schaffhausen：シャフハウゼン地域経済発展）が 1995 年夏に立ち上げられた。これには州内に立地する相対的大企業によって構成される工業企業団体が最初から関与し，いくつかの経営者団体もその活動を支援し，州政府も協力した。

WERS の活動には約 150 人の民間人が積極的に参加したが，そのなかで最も重要な役割を果たしたのは，州内に立地するコンサルティング企業の代表トーマス・ホーレンシュタイン（Thomas Holenstein）である。約２年間の活動を経て WERS は，州経済の再生のために州政府が重要な役割を果たすべきであり，スイス内他州との競争に打ち勝つべく、「経済振興法」の制定，振興基金の設定，地域内外へのシャフハウゼンに関するマーケティングを行うべき等という提言を 1997 年 10 月に取りまとめた。

この提言を受けて策定された「経済振興法」案がまず州議会を通過し，さらに州民投票を経て制定され，経済振興政策が実行に移された。その結果，例えば英語で授業を行うインターナショナルスクールが開設され，この効果もあって多国籍企業の欧州本部機能を持つ事業所の新規立地が進んだ。世界最大級の食品メーカーであるユニリーバ社の欧州内マーケティング・ロジスティクスの本部機能や、アメリカに本拠を置く多国籍農業機械メーカーであり、欧州内ではドイツのマンハイムに主力生産拠点を置くジョン・デーレ社の欧州本部機能等である。

かつての軍需企業だった SIG 社もその事業分野を大きく転換し、現在では包装機械の開発生産を主事業としている。GF 社も一時期の危機を克服して、現在では鉄鋼製だけでなく合成樹脂製のパイプ製造部門、鉄のみならずアルミニウムやマグネシウムなどを素材とする複雑な形状の自動車用鋳造部品、そして精密金属部品等の開発生産を主要事業としている。シャフハウゼンでの雇用数は約 2500 人に上り、依然としてこの州最大の企業としての地位を保持している。

この州の面積はわずか 298㎢でしかなく、熊本県山鹿市と大差ない。東京 23 区総面積の半分弱に匹敵する州都シャフハウゼンとラインの滝で著名なノイハウゼンとは隣接し、都市として景観的にほぼ一体とみなしうる。この両都市の人口は合わせて約 4 万 6 千人であり、州人口の過半数を占める。したがって、社会的ネットワークもまた濃密である。そうでなければ前述の WERS の活動も困難だったはずである。

シャフハウゼン州には、前述の大企業だけでなく、医療機械企業、製薬企業、食品企業などの工場や研究開発機能も立地しており、小規模地域でありながらその産業構造はバランスが取れている。ラインの滝と州都の中世都市景観の故に、ツーリストは年間を通じて多い。ただし、飛び地となっているシュタイン・アム・ラインは、より中世都市的景観を残しているものの、冬季のツーリストが多いとは言えない。

（3）3地域の共通点と相違点

いずれにも、地元中小企業の中から世界市場に商品を供給できる企業へと育ったものが複数ある。ただしそれには長期を要した。

いずれの地方政府も他地域あるいは外国からの企業誘致に熱心だった。特にシャフハウゼンの場合、経済にできるだけ介入しないというスイスの政治行政の特徴を覆して、むしろ地元の中小企業団体等が州政府に対してイニシャチブを発揮することを求め、これを受けて経済振興政策がスイス独特の住民投票を経て立法化されたことは、スイスの連邦制とその政治文化という特徴を示すという点で重要である。

地域帰属意識を強く持つとともに、市場を世界に求め、そのためのイノベーションを実現する中小企業、あるいはこれが大企業化した企業が複数存在し、大企業化しても本拠を他に移転しないという特徴も共通する。

単に企業だけでなく、地域全体としての濃密な社会的ネットワーク、インフラストラクチャー整備、そしてそれらを踏まえた生活の質の高さ、という点も3地域に共通する。

本格的な高等教育研究機関が地域内にないが、それと連携しうる教育機関を整備している。また、地域外の高等教育機関で学修した人材が地域に戻ってくるというプロセスが、エムスラントとフォラールベルクに認められる。他方、移民を受け入れてきたという伝統は3地域に共通する。その意味で外に対して開かれた地域社会であることが、これまでの経済発展にとって大きな意義を持っていたと言える。誘致企業といえども単なる分工場では決してなく、二重システムでの職業教育制度を通じて若者の職業資格獲得に大きく貢献するとともに、研究開発機能や意思決定機能を持つ場合があることも共通する。

州政府の権限が最も強いスイス、それが弱いオーストリア、その中間のドイツというように連邦制といっても多様性があるが、3地域いずれも州という用語で日本人がイメージする規模をはるかに下回り、エムスラントに至っては郡でしかないが、各政府の権限と住民や地元企業の発意をもとにした振興政策が展開されてきた。フォラールベルク州は中央集権的色彩が強い同国にあって、政治リーダーが連邦制を実質化することに貢献してきた。他方、エムスラント郡の政治的リーダーは州政府や連邦政府の支援をうまく引き出してきた。シャフハウゼンは、スイス建国の歴史ゆえに他州との競争意識が強く、日本の小規模地方自治体スケールでしかないが、その自律性が極めて高い。

エムスラントとフォラールベルクでは住民の多数がカトリックであり、カトリックの社会的教義である補完性原理（subsidiarity）の精神が強い。特に、後者では「自助のための支援」が重視されている。

（4）本研究の国内外での位置づけ

産業集積の中でなければ中小企業の発展はきわめて困難であるという論調が強い内外の学問的動向に対して、本研究の成果からそのように運命論的に受け取る必要はないことが明らかである。中小企業研究者の間では、地域の外にある需要を取り込む企業こそが重要であるという論調も強い。これに対して、本研究から、域内需要向けの事業から出発した企業であっても、North (1955)の言う移出ベースへと発展することができる、ということが具体的に明らかとなった。

North (1955)は移出ベースを重視し、これと域内向け産業との相互依存関係を強調するに留まった。これに対して Jacobs (1969;1984)は、域内向け生産企業が移出ベースへと発展しうることを指摘した。その過程において、既存の分業体系の一部への新しい仕事の付け加えや「インプロビゼーション」（漸次的なイノベーション）が重要な役割を果たし、もって「移入置換」が実現するという彼女の知見が具体的に確認された。他方において、誕生当初から移出商品を生産する企業も存在する。それゆえ、地域経済発展に関する特定モデルに固執する必要がないことも明らかである。重要なことは、イノベーティブな人材育成と獲得である。

なお、本研究の成果はこれまで日本国内の人文地理学関連の学会大会で報告しただけでしかないが、ドイツでは経済的な意味での周辺的な農村地域に「隠れたチャンピオン」企業の多いことが再注目され、その理由に関する研究が盛んになりつつある。具体的にはライプツィヒにある地誌学研究所（Leibniz Institut für Länderkunde Leipzig）がそれに取り組んでいる。また、ハノーファに拠点を置く地域研究国土計画アカデミー（Akademie für Raumforschung und Landesplanung）には、地域の発展のために果たす中小都市の役割を研究する作業グル

ープが昨年発足した。そうした人文地理研究者たちとの交流を進めることによって、筆者の研究についての国際的な評価を得ることが可能と考えられる。ついでながら、筆者の３年間の現地での調査研究は、特にフォラールベルクとエムスラントで注目され、後掲の筆者へのインタビュー記事が公表された。

＜引用文献＞

① Danielzyk, Rainer und Claus-Christian Wiegandt (1999) Das Emsland – "Auffangraum" für problematische Großproject oder "Erfolgsstory" im ländlich-peripheren Raum? In: *Berichte zur deutschen Landeskunde*, Bd.73: 217-244.

② Franke, Werner, Josef Grave, Heiner Schüpp und Gerd Steinwascher (Hrsg.) (2002) *Der Landkreis Emsland. Geographie, Geschichte, Gegenwart. Eine Kreisbeschreibung*. Meppen: Landkreis Emsland.

③ Feurstein, Christian (2009) *Wirtschaftsgeschichte Vorarlbergs von 1870 bis zur Jahrtausendwende*. Konstanz: UVK Verlagsgesellschaft mbH.

④ Historischer Verein des Kantons Schaffhausen (Hrsg.) (2001) *Schaffhauser Kantonsgeschichte des 19. und 20. Jahrhunderts*. Schaffhausen: Historischer Verein des Kantons Schaffhausen und Meier Buchverlag.

⑤ Jacobs, Jane (1969) *The Economy of Cities*. New York: Random House.

⑥ Jacobs, Jane (1984) *Cities and the Wealth of Nations. Principle of Economic Life*. New York: Random House.

⑦ North, Douglass C. (1955) Location theory and regional economic growth. In: *Journal of Political Economy*, Vol.63, No.3, pp.243-258

⑧ Pichler, Meinrad (2015) *Geschichte Vorarlbergs*. Bd.3 *Das Land Vorarlberg 1861 bis 2015*. Innsbruck: Universitätsverlag Wagner.

⑨ Scott, Allen J. (2001) *Global City-Regions. Trends, Theory, Policy*. Oxford: Oxford University Press.

⑩ WERS (Projektgruppe Wirtschaftsentwicklung Region Schaffhausen) (1997) Schlussbericht und Anträge zur Entwicklung der Wirtschaftsregion Schaffhausen. Schaffhausen: mimeo.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計１件）

① 山本健兒、ドイツ経済復活の鍵としてのミッテルシュタントと地域経済－Audretsch and Lehmann (2016)と Ewing (2014)の見解を踏まえて－、『經濟學研究』（九州大学経済学会）第 84 巻第 5・6 合併号、査読無、2018 年、pp.51-86

〔学会発表〕（計３件）

① 山本健兒、グローバリゼーションの下での人口小規模地域の経済再活性化－スイス，シャフハウゼン州の事例－、日本地理学会秋季学術大会、2017 年 9 月 30 日、三重大学（津市）

② 山本健兒、オーストリア、フォラールベルク州の産業構造転換－「地理的周辺」小規模州の経済活力－、人文地理学会 2016 年度大会、2016 年 11 月 13 日、京都大学吉田南キャンパス（京都市）

③ 山本健兒、ドイツの周辺部における経済活力ある農村地域、日本地理学会 2016 年春季学術大会、2016 年 3 月 22 日、早稲田大学早稲田キャンパス（新宿区）

〔その他〕

ホームページ等

新聞記事（含む web magazine）

① "Warum ein Japaner den Wirtschaftsraum Vorarlberg erforscht" Interviewer: Ms. Sabine Barbisch. In: *Thema Vorarlberg* vom 7.10.2017, Nr.32, S.12. http://themavorarlberg.at/wirtschaft/warum-ein-japaner-den-wirtschaftsraum-vorarlberg-erforscht

② "Kenji Yamamoto: "Vorarlberg ist ein hervorragender Wirtschaftsraum"". Interviewer: Ms. Sabine Barbisch. In: *Die Wirtschaft. Die Zeitung der Wirtschaftskammer Vorarlberg*, Jg.72, Nr.38, 22.9.2017, S.10-11. https://issuu.com/wkvorarlberg/docs/diwi-38-2017

③ "Prof. Yamamoto aus Japan schaut auf das Emsland. Schnell Heimatgefühl entwickeln. Interviewer: Ms. Christiane Adam. In: *Lingener Tagespost* vom 18.9.2017. https://www.noz.de/lokales/lingen/artikel/953262/prof-yamamoto-aus-japan-schaut-auf-das-emsland

６．研究組織

(1)研究代表者

山本　健兒（YAMAMOTO, Kenji）
帝京大学・経済学部・教授
研究者番号：５０１３６３５５